

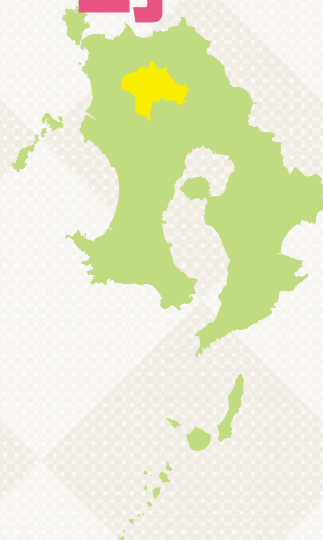
特集

トップ
インタビュー

ひと・まち・自然

みんなで紡ぐ

さつま町



TOP
Interview

さつま町長 上野 俊市

さつま町は県北西部に位置する。町の北部に紫尾山があり、町のほぼ中心を南九州一の大河である川内川が貫流し、温泉や竹林といった豊かな自然に恵まれた同町だが、どのようなまちづくりに取り組んでおられるのだろうか。上野俊市町長に、健康に暮らせるまちづくりへのビジョンやご自身の健康法等について、お話を伺った。

オールさつまで取り組む まちづくり

「さつま町における健康に暮らせるまちづくりへのビジョン」についてお聞かせください

本町は、少子高齢化に伴う過疎化、雇用環境や地方経済を取り巻く情勢が日々変化する中、「第2次さつま町総合振興計画」の中で目指す本町の将来像、「ひと・まち・自然 みんなで紡ぐさつま町」の実現のためには、創造性を発揮しながら、「ひと」、「まち」、「自然」の魅力を掛け合わせ、町民、地域、各

種団体、事業者、行政など多様な主体がともに連携し合うことが重要であり、まちづくりに「オールさつま」で取り組むことで新たな道が拓けるものと考えております。

また、安心安全なまちの構築に努めるとともに、子どもの笑顔が輝くまち、すべての町民が希望に満ちていきいきと暮らすことができ、「さつま町に住んでよかった」と思うことができるまちを目指しています。

この実現のために、豊かな自然環境や農畜産物に恵まれ、永い歴史に培われた風土や文化遺産などを最大限に生かしたまちづくりに取り組んでまいります。

町では、平成23年に「さつま町健康づくり推進のまち」を宣言し、平成24年度に健康増進計画である「健康さつま21」改訂版を策定しています。目指す「健康いきいき 元気さつま」の実現に向けて、町民自らが主体的に生活習慣や健康づくりを見直すとともに、地域全体で健康づくりを推進することで、これまでの取り組みや現状を評価し、

“自分の健康は自分で守る”という意識のもと、～今日が10年後のあなたの身体とどころをつくります～を合言葉に、取り組んでいます。来年度が最終年度となるため、これまでの経過を踏まえ、次期計画を新たに策定することとしています。

―力を入れておられる取り組みや、特色のある取り組みについてお聞かせください

健康づくりは、まず自分のからだをよく知ることから始まると考えています。そのためには特定健診やがん検診の受診が不可欠と考えています。

～ワンコインがん検診を実施しています～
 国が推奨する5大がん検診のうち、特に胃がんと女性がん（乳がん・子宮頸がん）の受診率が低いことが課題でした。令和4年度から町が集団検診会場で行う各種がん検診は1つの検診につき自己負担額500円で受診できる「ワンコインがん検診」を始めました。内容は、国が推奨する5大がん検診（胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん・子宮頸がん）に町独自の取り組みとして前立腺がん検診を追加しました。

●住民への周知

4月初めにワンコインがん検診案内チラシを全戸配布したところ、チラシを見た住民から、早速追加申し込みの連

絡があったことから関心の高さがうかがわれます。

9月には、町内の郵便局のご協力で今後受けることができる健診・検診の案内チラシを置かせていただきました。気軽に手に取れることで、自分の健康に興味を持っていただく機会に恵まれたと思っています。

10月のピンクリボン月間期間中、役場本庁町民ホールにピンクリボンツリーを飾り、乳がんで大切な人を失くす人が少なくなるように願いを込めてピンクリボンを結びました。乳がんセルフチェックシートやリーフレット、絵本は、NPO法人ピンクリボンかごしま事務局や博愛会さがらパス通りクリニックから提供していただきました。同時に子宮頸がん検診や5大がん検診についてもポスター展示を行い、チラシや普及



ピンクリボン月間の展示

啓発グッズ等は県庁や県民総合保健センターから提供していただきました。今年度初めての取り組みでしたが、関係機関のご協力もあり、今年度の女性検診受診者が増えました。

1月は令和5年度の受診意向調査票を全対象者へ世帯ごとに送付し、受診申し込みができるようにします。職場や人間ドックで受診される方や通院中等で申し込みを希望されない方も調査票は提出していただくようお願いし、未受診者の把握にも努めて参ります。

●多くの住民が検診を受けられるようにしています

- ①安心して受診していただくための感染対策の徹底
- ②予約制の女性検診（待ち時間が短縮）
- ③土日日の検診
- ④「要精密検査」結果の相談、医療機関の案内

●若年層の受診率向上のために

国が推奨する新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業により、初めて受診する方にがん検診を身近なものとして受け止めてもらうとともに、がん検診に関する正しい知識を身につけてもらうため、クーポン券と検診手帳を送っています。21歳の女性へは子宮頸がん検診を、41歳の女性へは乳がん検診を集



特定健診結果報告の様子

団検診会場日程案内と一緒に送っていますので、無料クーポン券が届いた女性にはぜひ受診していただきたいです。

ロードバイクで気分転換もストレス解消も

―町長ご自身の健康について、普段から心がけていらっしゃるごことがありましたらお聞かせください

私が行っている健康管理やストレス解消と言えば、しっかりと朝食と昼食はバランス良く食べ休肝日を設けることと、可能な時は週2回の8～10km程度のランニング若しくはウォーキングで汗を流すことです。また、少し暖かくなってきたら50km位の距離をロードバイクで走りますが、一月三日には川薩管内を60km走り、いい気分転換になりました。



紫尾温泉の露天風呂

このほか、体幹と足、腰を鍛えるために毎朝、始業時間の7時45分位から8時位迄の15分を活用し、四股を踏み軽いスクワットを行っています。

この職は肉体的にもそうですが、ストレスも溜まるので、温泉も行きたいのですが、なかなか時間がとれず難しい状況です。

いろいろな課題も多く忙しい職ですが、先ず、無理をせず身体と相談しながら

健康管理には気を付けています。

——最後に何かさつま町のPRがございましたらお聞かせください

本町は、鹿児島県北西部に位置しており、北に紫尾山が、町のほぼ中央を川内川が東西に貫流しており、5月から6月にかけて数多くのホテルを目にする事ができます。また温泉や緑豊かな竹林など自然あふれる町です。基幹産業は農林業で、特に「薩摩中央家畜市場」の子牛取引価格は全国トップクラスです。

いい水、いい土、いいもの作りの情熱により、美味しいものがたっぷりとある食の宝庫。特に鹿児島黒牛や米、薩摩西郷梅、お茶、筍などは高く評価されています。また、町・J A・商工会・観光特産品協会が垣根を超えた連携により、郷土のなつかしき、あたらしき、人の温かさを感じる地域ブランド「薩摩のさつま」として独自基準を満たした20事業者23品目の特産品を認証しており、販路拡大を図ります。

川内川の「ホテル舟」は、ホテルの群生を間近で鑑賞でき非日常を感じる全国でも珍しい幻想的なクルーズです。

また、神社の拝殿下から湧出することから「神の湯」と呼ばれる紫尾温泉を始め、町内に22もの温泉施設が点在

し、美人泉と呼ばれる湯が湧出していることで県内外に知られる歴史ある温泉地でもあります。今の時期、渋柿を温



宮之城歴史資料センターに展示されている甲冑



国指定史跡 宮之城島津家墓所

泉に浸け、渋みを抜くあおし柿が有名です。

宮之城島津家の菩提寺であった宗功寺は、廃仏毀釈で廃寺になりましたが、墓地は国指定史跡として33基の墓石が立ち並んでいます。宮之城島津家は分家の中でも家格が高く、藩の家老を数多く輩出し、領地をよく治め、金山の発見、新田開発などにおいて藩にも大きく貢献したそうです。金山は永野金山と呼ばれ霧島市の山ヶ野金山とともに、産金量は日本一だった時期もあり、採掘は昭和28年まで続けられ、地元ではこの遺構を大切にされています。

地元高校ラグビー部が全国大会に出場したことをきっかけに、30年以上前からラグビー合宿の地になっており、夏になると全国から強豪チームがあつまります。これをきっかけに、スポーツコンベンションのまちとしてバレーボールや水泳、吹奏楽等の合宿も開催されるようになりました。なお、本町は本年10月に開催される燃ゆる感動かごしま国体ラグビーフットボール競技（少年男子）会場になっています。

国道3本が市街地で交差する交通アクセスに恵まれた位置にありますので、ぜひさつま町に足を運んでいただき、本町の魅力を存分に味わっていただければと思います。